特定非営利活動法人
湘南 NPO サポートセンター
令和４年度　事業報告書

2022 年 4 月～2023 年 3 月

(令和 4 年 4 月 1 日より令和 5 年 3 月 31 日まで)

～一人ひとりが自分らしく暮らせるまちに～

わたしたちは、組織や制度の壁を越え、人々がつながり共に行動する市民社会をつくるため、NPO・自治体・企業・大学等と連携し社会課題・地域課題の解決に向けて活動しています。

湘南NPO
サポートセンター

［事業運営に関する事項］

特定非営利活動に係る事業

（１）市民や市民活動団体及び地域活動団体の自立と連携を推進する事業

ア　市民活動・地域活動の相談及びコーディネート事業

・内　　容　　市民活動団体や地域活動団体の相談や援助の活動及びコーディネート、情報交換と交流の場づくり、内部研修他

・日　　時　　随時

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　17 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体等

・支　出　額　　40,773 円

イ　ひらつか地域づくり市民大学の開催、人材育成・コーディネート（平塚市との協働事業）

・内　　容　　第 10 回ひらつか地域づくり市民大学の開催（地域づくりの人材育成）

・日　　時　　10 月 23 日、11 月 20 日、12 月 11 日、12 月 25 日　（全４回）

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　7 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、平塚市及び近隣市町村民

・支　出　額　　321,128 円

ウ　ひらつか市民活動センター運営事業（平塚市との協働運営）

・内　　容　　ひらつか市民活動センター運営事業

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　11 人　　※必要に応じて会員が支援

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体、及び関係各機関等

・支　出　額　　18,619,000 円

エ　農福連携マッチング等支援事業（神奈川県との協働事業）

・内　　容　　神奈川県と共に障がい者の就労機会の確保・工賃向上、農業の担い手の確保という課題を解決するため、農福連携の推進が必要であるという課題を共有し、協働で事業を実施するに当たり、農福連携の推進を通じて、誰もが支え合い、受け入れ合う持続可能な共生社会の実現を図る事業

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　5 人

・対　象　者　　農業関係者、障がい者支援団体、及び農福連携に関心のある市民

・支　出　額　　1,254,000 円

オ　地域の支え合い仕組みづくり事業（神奈川県との協働事業）

・内　　容　　地域住民組織（城島地区）・平塚市・神奈川県と共に高齢者が自分らしく活躍できる仕組みづくり支援を通じて、誰もが支え合い、受け入れ合う持続可能な共生社会の実現を図る事業

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　9 人

・対　象　者　　城島地区住民の皆さん

・支　出　額　　1,800,000 円

カ　社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業（平塚市協働事業）

・内　　容　　地域の課題解決に向けた地域づくりを行う上での留意点・確認するポイントをわかりやすく体系化し、次世代へ継承していける新しい生活様式を取り入れた地域活動の仕組みづくり支援事業

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内

・従事者人員　　11 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、平塚市及び近隣市町村民

・支　出　額　　2,758,800 円

キ　法人設立 10 周年記念事業

・内　　容　　NPO 法人格を取得して 10 年を過ぎ、関係者の皆様にこれまでのご協力に対する感謝の意をお伝えするとともに、新たな一歩を踏み出すための区切りとして実施

・日　　時　　9 月 10 日（土）17:00～19:00

・場　　所　　グランドホテル神奈中平塚

・従事者人員　　10 人

・対　象　者　　会員、関係者、他

・支　出　額　　258,475 円

（2）市民活動や地域活動及び地域社会の情報化やまちづくりの支援事業

ア　メディア事業

・内　　容　　市民及び市民活動団体、地域活動団体、事業者等が発行するチラシやリーフレットの相談・制作。WEB サイト構築に関する相談と助言及び制作。

・日　　時　　通年

・場　　所　　平塚市内及び近隣市町村

・従事者人員　　5 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体、事業者等

・支　出　額　　1,291,590 円

イ　ＩＴの利活用についての相談・助言

・内　　容　　スマホ・タブレットさろんの運営

・日　　時　　毎週木曜日 10:00~12:00

・場　　所　　ひらつか市民活動センター

・従事者人員　　6 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体

・支　出　額　　131,705 円

ウ　ローカルメディアを活用した平塚地域及びその周辺の魅力ＵＰ発信事業

・内　　容　　:ひらつか地域魅力ネットの運営

主に平塚市域の魅力的な人・場所・コトを取材し Web サイトで紹介する

・日　　時　　通年

・場　　所　　ひらつか市民活動センター

・従事者人員　　10 人

・対　象　者　　市民、市民活動団体、地域活動団体、事業者

・支　出　額　　2,478 円

（３）その他この法人の目的を達成するために必要な事業

実施しなかった。

尚、事業の詳細は【別紙】に記載する。

［令和４（2022）年度事業報告］

事業総括

理事長　坂田　美保子

令和４年度は、中期計画「20 年 30 年先の未来を予測した、地域まちづくり人材の育成と地域づくりの拠点機能としての役割を果たす４年間（平成 31 年～令和４年）」の最終年度として、これまで実施してきた各事業を振り返りつつ、新たな方向性を共に考える１年として位置づけました。

3 年間のコロナ禍によって人との交流が途絶え、その結果改めて人と人とのふれあいの大切さを実感しました。人は一人では生きていけないのと同様に、まちづくりも一人では出来ません。日常生活の中でのふれあいや交流があってこその市民活動であることを思い知らされた３年間であったように思います。

同時に一つ一つの事業においても少なからず影響を受け、思うように進めることができなかったことが反省として残っています。この３年の間にもっと出来ることがあったのではないか、もう少し人材育成を進めることが出来たのではないか、組織基盤強化に力を注ぐことは出来たのではないか等々、振り返ればまだまだたくさんの課題を抱えています。

そのような中、令和 4 年 10 月に実施した、法人設立 10 周年記念式典及び意見交換会では、初代理事長をはじめ設立に向けてご協力いただいた方々や関係者の皆様からいただいた温かい励ましと叱咤激励の言葉は、新たな一歩を踏み出すきっかけとなり、年度後半にかけて理事会の中で相当議論を行って来ました。その結果少しずつではありますが、組織内体制が強化されつつあります。安定した組織運営を行っていくには理事会を中心に経営基盤を整え、会員相互の連携・協力はもとより関係する諸団体等との連携・協力を進めていくことが重要です。そのような意味でも 10 周年記念事業は実施した意味があったように思います。

各事業部においては、順調に事業を実施することができました。

最終年度となる「地域の支え合い仕組みづくり事業（神奈川県との協働）」では、城島地区の皆さんが自走できる仕組みづくりに注力を注ぎました。「農福連携マッチング等支援事業（神奈川県との協働）」では数々のマッチング事例が生まれ、年度末に実施した農福連携フォーラムでは県内外から多くの方々にご参加いただき好評を得ることが出来ました。「社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業（平塚市協働事業）」では、市内５つの連合自治会からアンケート結果説明会のオファーをいただくなど、地域活動が抱える課題解決に向けて考えるきっかけづくりが出来ました。また市民活動センターでは 3 年ぶりに通常に近いやり方でおまつりを開催し、1200 名もの方々にお越しいただくことが出来、市民活動のコロナ後の再開にむけて拍車がかかった団体も多くありました。一方、メディア事業部「スマホタブレットサロン」は安定した事業活動ができましたが、「地域魅力ネット」は殆ど動かすことが出来ませんでした。メディアサポート事業は昨年通りの実績となりました。

令和４年も、関係各位の皆様のご理解ご協力を得て事業を実施することができました。理事会、ひらつか市民活動センター運営事業部、まちづくり事業部、メディア事業部、それぞれに関わる会員一人ひとりが各人の役割を認識し実践することで組織基盤強化につながります。

改めて御礼申し上げると共にこれまで以上に会員の皆さまのご協力をよろしくお願いいたします。

（1）市民や市民活動団体及び地域活動団体の自立と連携を推進する事業

ア　市民活動・地域活動の相談及びコーディネート事業

・相談事業　市民活動団体の相談対応

団体の運営、NPO 法人の設立、申請書・報告書の書き方、事業計画の立て方、事業の進め方、助成金の申請など、適宜対応した。※ひらつか市民活動センターの相談件数参照

・市民活動団体及びメンバー間の交流・情報交換の場づくり

オンラインによる定例会等で情報共有に努めた。

イ　平塚市との協働事業：ひらつか地域づくり市民大学の開催、地域人材の育成、コーディネート

●地域づくりの担い手の育成と地域づくりへの関心を高めることを目的として、第 10 回ひらつか地域づくり市民大学を開催。地元から参加できるようにと３つの地区公民館（大神・富士見・松ヶ丘）にご協力いただき全４回をハイブリッド開催とした。各地区公民館と市民活動センターをオンラインでつなぎ、それぞれ 10~15 名程度、延べ 196 名が参加した。

・10 回目を記念し、初回基調講座ではコミュニティソーシャルワーカー第一人者であられる豊中市社協の勝部麗子氏の講演を、その後の 2 回は地域づくり先進事例として市内６つの取り組みを紹介した。身近な事例とあって熱心に耳を傾け、自分の地域に持ち帰って検討したいという声が多く上がった。

＜参加者の声（一部抜粋）＞

・豊中市での活動を学び、若者を取り込む企画や組織について知ることができた。何か街と関わりたいと思っても場所がなく、何ができるのかもわからない人も多いと思うので、平塚でもこのようなボランティアが増えたらよいなと感じました。（基調講演）

・平塚市内でも各地区によって独自な取り組みがあり、役に立つ情報がありました。いろいろな地区の横断的に情報が集まれば（良い所を取り入れ）より良い地区になるのではないかと思いました。（第１回）

・講義がとてもよかった。事例をもっと聞きたかった。(最終回)

（講座の主な内容）

日時	内容	受講者数
10 月 23 日（日）	基調講座「誰一人取り残さない共生社会の実現に向けて」 講師：勝部麗子氏（豊中市社会福祉協議会事務局長）	地域 43 名 ｾﾝﾀｰ 14 名 計　57 名
11 月 20 日（日）	「地域の力で支え合いの仕組みをつくる」3 事例の紹介 ①　撫子原自治会防災の取り組み　②須賀新田シニアクラブの外出支援の取り組み　③崇善地区ちいき情報局の取り組み	地域 39 名 ｾﾝﾀｰ 13 名 計　52 名
12 月 11 日（日）	「地域の人や資源を活かしてまちを磨く」3 事例の紹介 ①　土屋公民館の歴史人物をテーマに地域づくり　②八幡子ども村の取り組み　③城島地区の取り組み	地域 39 名 ｾﾝﾀｰ 10 名 計　49 名

12 月 25 日（日）	「新しい地域づくりの一歩を踏み出すために」 講師：宮崎道名（理事）・鈴木奏到（理事）	地域 28 名 ｾﾝﾀｰ 10 名 計　38 名

（延べ参加人数 196 名）

・4 月吉日「第 10 回ひらつか地域づくり市民大学報告書」を発行（300 部）

・平塚市（協働推進課・中央公民館・福祉総務課）との定例会議（適宜）

内容：事業の企画会議・進捗確認・運営、中長期的事業方針・目的・方向性に関する会議等

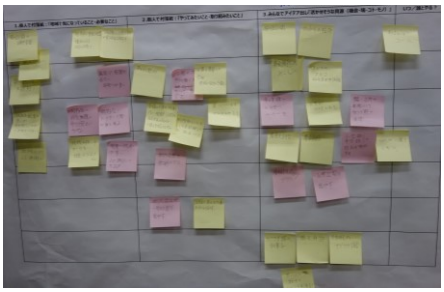
※コロナ禍のためメールでの情報交換を中心に、直前の打ち合わせと当日の振り返り会を実施した。

松ヶ丘公民館の様子

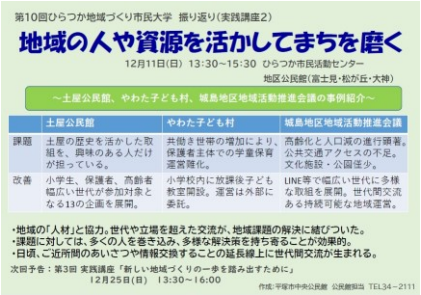
富士見公民館の様子

市民活動センターの様子

大神公民館で受講された皆さん



ワークショップで出た意見



中央公民館 HP で毎回報告

ウ　ひらつか市民活動センター運営事業

1　実施業務

ひらつか市民活動センターの設置及び管理等に関する条例及び施行規則に基づき、ひらつか市民活動センター（以下、「センター」という。）の管理等に関する業務全般を行った。

主な実施業務は次のとおり。

（1）市民活動推進のための施設及び設備利用について

ア　センターを利用するものの利用承認に関する業務

【新規登録件数】

市民活動団体	8 団体
一般団体	10 団体

イ　センターの会議室、特定設備及びレターケース等の利用承認に関する業務

【会議室等利用状況】

区分	年度	利用団体数				利用人数			
		午前	午後	夜間	合計	午前	午後	夜間	合計
会議室	2022年度	813	878	586	2,277	7,294	8,052	4,865	20,211
	2021年度	746	863	537	2,146	5,608	6,165	3,579	15,352
	前年差	67	15	49	131	1,686	1,887	1,286	4,859
	前年比	109.0%	101.7%	109.1%	106.1%	130.1%	130.6%	135.9%	131.7%
ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ	2022年度	556	716	181	1,453	2,004	2,406	694	5,104
	2021年度	502	573	116	1,191	1,558	1,669	366	3,593
	前年差	54	143	65	262	446	737	328	1,511
	前年比	110.8%	125.0%	156.0%	122.0%	128.6%	144.2%	189.6%	142.1%
情報ｺｰﾅｰ	2022年度	52	78	15	145	59	89	16	164
	2021年度	65	68	4	137	68	71	5	144
	前年差	▲ 13	10	11	8	▲ 9	18	11	20
	前年比	80.0%	114.7%	375.0%	105.8%	86.8%	125.4%	320.0%	113.9%
作業ｺｰﾅｰ	2022年度	144	135	20	299	385	244	24	653
	2021年度	309			309	615			615
	前年差	▲ 165	135	20	▲ 10	▲ 230	244	24	38
	前年比	46.6%			96.8%	62.6%			106.2%
ｷｯｽﾞﾙｰﾑ	2022年度					31			31
	2021年度					38			38
	前年差					▲ 7			▲ 7
	前年比					81.6%			81.6%
総合計	2022年度	1,565	1,807	802	4,174	9,773	10,791	5,599	26,163
	2021年度	1,622	1,504	657	3,783	7,887	7,905	3,950	19,742
	前年差	▲ 57	303	145	391	1,886	2,886	1,649	6,421
	前年比	96.5%	120.1%	122.1%	110.3%	123.9%	136.5%	141.7%	132.5%

2021年度：作業とｷｯｽﾞは時間区分で管理していなかったため、午前に集約している。

【会議室の稼働率】

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	上期
2022年度	70.0%	74.2%	75.2%	78.5%	58.4%	74.4%	71.6%
2021年度	68.9%	66.7%	63.7%	69.9%	44.1%	51.1%	60.7%

年度	10月	11月	12月	1月	2月	3月	下期	通期
2022年度	72.0%	74.2%	69.2%	74.9%	77.4%	79.1%	74.5%	73.0%
2021年度	74.2%	76.3%	79.0%	75.3%	65.9%	68.8%	73.2%	66.8%

【特定設備利用件数】

ロッカー小・小別	40 個／40 個
ロッカー大	18 個／18 個

【レターケース利用件数】

ロッカー小	79 個／81 個

ウ　センターを利用するものが、センターに設置する印刷機、複写機及びプリンターを使用した場合の使用料、並びに、たすけ愛文庫等の寄附金の収納（徴収）業務

【実施実績】　毎月提出済み

（２）市民活動に関する情報を収集し、及び提供。

ア　ホームページ・メールマガジン・ＳＮＳ等による情報発信

【ホームページ】

① トピックス（センターの開館及び会議室の利用状況に関する情報、市民向け講座等の情報、平塚市情報等の掲載、

② イベント情報（市民活動団体イベント情報）

③ 助成金情報

④ ボランティア情報

⑤ イベント開催レポート（センター主催事業の報告等）⑥ひらつかの風（適宜）

⑥

・活動センターWeb サイト：**2023** 年 **3** 月末までアクセス状況

▼計測期間：2022/4/1~2023/03/31(365 日)

▼比較期間：2021/4/1~2022/03/31(前年同時期)

▼ページビュー数：今期 148,308 回、前期 112,027 回（期間中に閲覧されたページの数）

▼年間ユーザー数：今期：46,023 人、前期：34,442 人（1 年間にサイトに訪れた人数）

【メールマガジン】毎月 10 日発行（R4.4 月～R5.3 月まで 12 回発行）（220 号/3 月発行）

【ＳＮＳ等による】

▼Facebook：フォロワー 319 人、「いいね！」299 件

▼YouTube：登録者数 52 人

イ　情報紙の発行（年 6 回／隔月発行）

【ひらつかの風（情報紙）発行】

第 26 号	5 月 15 日発行	第 27 号	7 月 15 日発行
第 28 号	9 月 15 日発行	第 29 号	11 月 15 日発行
第 30 号	1 月 15 日発行	第 31 号	3 月 15 日発行

ウ　ボランティア情報紙の発行（年１回）

【ひらつかの空（ボランティア情報紙）発行進捗状況】

実施内容	実施日
掲載団体募集	5 月 16 日（月）～7 月 16 日（土）
掲載（35 団体）確定	
若者による取材	7 月 18 日（土）～7 月 30 日（土）
改訂版発行	11 月 15 日（火）発行 400 部

（３）市民活動に関する調査及び研究を行った。

ア　センターを利用するものへのアンケート調査（結果の分析を含む）（年１回）

【12 月実施)】

配布数	363 件
回収数	134 件
回収率	36.9%

（４）市民活動に関する相談。

ア　市民等からの次の相談を行い、相談記録を作成した。

【相談件数】

相談件数	231 件
（内専門相談）	91 件/231 件

相談内容	登録団体		一般団体		登録外団体		合計		差異
	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	2022年度	2021年度	
ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ関連	0	1	0	0	14	11	14	12	2
市民活動を知りたい	3	1	0	0	16	9	19	10	9
ｾﾝﾀｰ登録	0	0	0	0	5	9	5	9	▲ 4
団体設立	0	1	0	0	3	6	3	7	▲ 4
NPO法人設立	1	1	0	0	2	6	3	7	▲ 4
助成金	7	5	0	0	1	4	8	9	▲ 1
組織運営	18	13	1	0	8	9	27	22	5
協働	0	0	0	0	1	0	1	0	1
その他	28	25	3	0	29	24	60	49	11
団体登録に関する相談	0	0	0	0	24	38	24	38	▲ 14
ﾌｫﾛｰ	56	22	0	0	11	31	67	53	14
合計	113	69	4	0	114	147	231	216	15

【相談内訳】

専門相談（内数）	通期		差異
	2022年度	2021年度	
団体運営	2	3	▲ 1
法人設立	3	12	▲ 9
助成金	6	4	2
広報・ﾃﾞｻﾞｲﾝ	0	0	0
会計・税務	21	17	4
連携・協働	0	0	0
情報発信	0	0	0
寄付促進	0	0	0
その他	19	15	4
ﾌｫﾛｰ	40	29	11
合計	91	80	11

（５）市民活動に関する学習の機会及び市民活動を行うものの相互交流の機会を提供。

ア　市民等向け講座の実施（年８回）

【市民向け講座　４回実施】

講座名・講師等	実施日	参加者数
支援者の為のセルフケア講座 NPO 法人　しえんのまなび舎　理事長　髙梨聡美氏	4 月 30 日（土） 14:00~16:00	5 団体・8 人 スタッフ・4 人 合計・12 人
NPO の広報講座～その情報、伝えたい人に伝わっていますか？ 1 回目：㈱ボンド　企画プランナー 市川歩氏	6 月 25 日（土） 13:30~15:30	10 団体・11 人、個人・1 人 スタッフ・5 人 合計・17 人
NPO の広報講座 2 回目：㈱ボンド代表取締役 市川靖洋氏	7 月 2 日（土） 13:30~15:30	10 団体・11 人、個人・1 人 スタッフ・4 人 合計・16 人
防災座談会～誰も取りこぼさない共生社会に向けて～ 認定 NPO 法人 かながわ３１１ネットワーク代表理事　伊藤朋子氏	9 月 30 日（金） 14:00~16:30	10 団体・21 人、個人・12 人 スタッフ・6 人 合計・39 人
協働研修会　平塚市職員とともに学ぶ～行政と NPO の協働 認定 NPO 法人藤沢市民活動推進機構理事長　手塚明美氏	11 月 2 日（水） 10:00～12:00	職員・21 人、団体・19 人 合計・40 人
グラフィックファシリテーション講座（全 3 回） NPO 法人湘南 NPO サポートセンター理事　宮崎道名氏	12 月 4 日（日） 12 月 24 日(土) 1 月 28 日（土） 13:30～15:30	3 団体・5 人、個人・3 人 合計・8 人 延べ参加人数・24 人

イ　センターを利用するもの同士の交流会の実施（年１回）

実施内容	実施日	参加者数
第９回 NPO@リレートーク NPO 法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ湘南ブロック代表　棟保禎彦氏	12 月 3 日（土） 14:00～15:30	6 団体・8 人 スタッフ・2 人　合計 10 人
SDG s でつながろう！団体交流会;一般社団法人 SISA 代表理事小野利隆氏	2 月 25 日（土） 13:30~16:00	7 団体・7 人 スタッフ・5 人 合計・12 人

ウ　市民活動の普及のためのイベントの実施（年１回）

【ひらつか市民活動センターまつりの進捗状況】

実施内容	実施日	参加者数	決定事項
実行委員会発足	6 月 17 日（金）	15 団体・17 人	
第 1 回実行委員会	6 月 17 日(金) 18:00~19:20	13 団体･14 人 協働推進課･3 人 スタッフ･5 人 合計･22 人	*実行委員長、副実行委員長の選任。 *開催日時､参加団体数(51 団体)の確認。
第 2 回実行委員会	7 月 15 日(金) 18:00~19:30	12 団体･14 人 協働推進課･3 人 スタッフ･5 人 合計･22 人	*会計監査選任。 *ｷｬｯﾁｺﾋﾟｰの決定 *ﾒｲﾝ企画､子ども向け企画。
第 3 回実行委員会	8 月 19 日(金) 18:00~19:30	14 団体･14 人(内、ZOOM4 人) 協働推進課･3 人 スタッフ･5 人 合計･22 人	*参加団体確定(47 団体) *企画の具体化。 *SNS 等情報発信。 *市民活動推進月間(11 月 1 ヵ月)への取り組み
第 4 回実行委員会	9 月 16 日(金) 18:00~19:30	10 団体･11 人 協働推進課･3 人 スタッフ･6 人 合計･20 人	*会場ﾚｲｱｳﾄ､備品の確認 *まつり実行委員会用 Facebook の立ち上げ
缶バッジづくり	9 月 23 日（金） 9 月 24 日（土）	7 団体・7 人 8 団体・8 人	景品用の缶バッジの制作・1000 個
第 5 回実行委員会	10 月 21 日(金) 18:00~19:30	11 団体・14 人 協働推進課・3 人 スタッフ・5 人 合計・22 人	*全体説明会の運営について *前日・当日について レイアウト、搬入等
前日準備	11 月 26 日(土) 14:00～17:30		参加団体及び事務局で会場の準備、飾りつけ他
当日運営	11 月 27 日(日) 8:30～16:30		まつり運営、片付け、参加団体反省会（43 団体）

第６回実行委員会	12 月 16 日(金)	10 団体・10 人 協働推進課・3 人 スタッフ・5 人 合計・18 人	*会計監査 *反省会、振り返り
備考	・崇善小学校マーチングバンドによる演奏（オープニング） ・若者ボランティア活動報告会（ひらつかの空完成披露） ・チラシ大賞表彰式 ・市内幼稚園、保育園児によるセンターマスコット「たすけくんとあいちゃん」のぬり絵の展示 ・未来まちづくり掲示版の設置（まちづくりへの声を拾う） ・平塚中等教育学校メディア部生徒作成による「平塚版 SDGs 自分ごと化プロジェクト」動画の上映など		

【ひらつか市民活動センターまつりの実施】

実施日	参加者数	実施内容
11 月 27 日（日） 10:00～15:00	延べ１，２００名 	内訳・団体(関係者含)307 人　一般来場者・893 人 *出展団体・44 団体（応募 48 団体） 展示・相談・パフォーマンス・体験 *ぬり絵展示・414 枚　*チラシ大賞・26 団体 *未来まちづくり掲示板・70 件の声収集 *若者ボランティア報告会・60 人

エ　特定非営利活動法人の会計・税務相談会の実施（年１回）

【会計・税務相談会　２回実施】

講座名・講師等	実施日	参加者数
会計・税務相談会 徳永、小原税理士	9 月 15 日(金) 18:00~19:20	1 団体･3 人 スタッフ･3 人　合計･6 人
会計・税務相談会 徳永、小原税理士	2 月 8 日(水) 18:00~19:20	2 団体･4 人 スタッフ･3 人　合計･7 人

オ　ＳＤＧｓの普及啓発のための講座の実施（年１回）

【ＳＤＧｓの普及啓発のための講座　１回実施】

講座名・講師等	実施日	参加者数
親子で学ぼう“SDGs”講座 （一社）SISA　小野利隆氏 （有）東欧企画　田中志麿氏	8 月 20 日(土) 13:30~16:00	大人･13 人、子ども･13 人 スタッフ･3 人 合計･29 人

（６）市民活動に係る人材の育成。

ア　若者のボランティア参加を促進する事業の実施（年１回）

【若者のボランティア参加を促進する事業の進捗状況】

実施内容	実施日	参加者数	決定事項
①オリエンテーション			
オリエンテーション１	6 月 11 日（土） 13:00～ 15:00	高校生 2 人、大学生・4 人（内、2 人は前年度ボランティア） スタッフ・4 人 合計・10 人	①大学生・2 人、高校生・4 人で発足。昨年度参加の大学生を交え、取材時の心構え等を共有。取材先の選定。
オリエンテーション２	6 月 25 日（土） 13:00~15:00	高校生・1 人、大学生・1 人、スタッフ・2 人 合計・4 人	
オリエンテーション３	7 月 3 日（日） 13:00~15:00	高校生・1 人、スタッフ・2 人 合計・3 人	
②ボランティア活動・取材			②ボランティア活動を体験し、当日又は後日改めて取材をする。
1.未来経験プロジェクト	7 月 18 日（土） 18:00~20:00	高校生・2 人、スタッフ・1 人 合計・3 人	
2.湘南の森	7 月 23 日（土） 10:00~12:00	大学生・2 人、スタッフ・1 人 合計・3 人	
3.ひばり野のなかま達	7 月 27 日（水） 14:00~18:00	高校生・1 人、スタッフ・1 人 合計・2 人	
4.平塚花のまちづくりの会	7 月 27 日（水） 09:00~10:30	高校生・2 人、スタッフ・1 人 合計・3 人	
5.里山をよみがえらせる会	7 月 30 日（土） 09:00~15:00	高校生・2 人、スタッフ・1 人 合計・3 人	
6.フードバンク湘南	7 月 30 日（土） 09:30~12:00	大学生・1 人、スタッフ・1 人 合計・2 人	③取材に基づき記事を書き、最終仕上げをし、11 月の改訂版発行を目指す。
③取材記事作成	9 月 25 日（日）	6 人より取材記事提出	
④編集会議	10 月～11 月 11 月 15 日	原稿仕上げ・校正・入稿 発行日 11 月 15 日（火）	④取材記事の編集校正作業
⑤活動報告会	11 月 27 日		⑤センターまつりにて活動報告会を実施

イ　市民の市民活動参加を促進する事業の実施（年１回）

【市民の市民活動参加を促進する事業　１回実施】

事業名・講師等	実施日	参加者数
基礎からわかる　NPO 法人のつくり方講座 NPO 法人湘南 NPO サポートセンター理事長 坂田美保子	6 月 11 日(土) 10:00~12:00	3 団体･5 人、個人･11 人 スタッフ･5 人 合計･21 人

（７）その他市民活動の推進に関することについて。

ア　市との情報共有（センター運営状況の報告等）（毎月１回）

【市職員を含めたスタッフミーティングの実施　１２回】

4 月	4 月 8 日(金)	10 月	10 月 7 日(金)
5 月	5 月 6 日(金)	11 月	11 月 7 日(月)
6 月	6 月 7 日(金)	12 月	12 月 7 日(水)
7 月	7 月 5 日(火)	1 月	1 月 6 日(金)
8 月	8 月 2 日(火)	2 月	2 月 7 日(火)
9 月	9 月 7 日(水)	3 月	3 月 6 日(月)

※2 月 7 日センター及び崇善公民館との合同による避難訓練を実施した。

イ　センターの清潔さの維持のための最低限の清掃　【随時実施】

ウ　その他、市が参加を必要とした関係機関等のイベントなどへの参加（１～３回を想定）

【10 月 22 日(土)　TOKAI グローカルフェスタ参加：東海大学湘南校舎】

2　業務内容を履行するための要件に対する対応

（１）常時２名をセンターに配置すること。

ただし、業務内容に応じて必要最小限の範囲で増員可能とする。

【常時２名をセンターに配置し、業務内容に応じ増員をした】

【湘南ひらつか七夕まつり開催に伴い、令和４年７月６日(水)午前９時から７月 11 日(月)の期間を休館とした】

（２）ひらつか市民活動センターのホームページを管理・運営すること。

なお、市と協議のうえ、市民の利便性向上に努めること。

【適切にひらつか市民活動センターのホームページを管理・運営した。】

【市民活動団体情報ファイルを団体自身が編集できるように改修した。】

（３）センターは、平塚市立崇善公民館との複合施設であるため、同館との連携・調整をすること。

【相互利用実績】

項目	崇善公民館登録団体のｾﾝﾀｰ利用						ｾﾝﾀｰ登録団体の崇善	
区分	会議室		ﾐｰﾃｨﾝｸﾞｽﾍﾟｰｽ		合計		会議室	
	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数	団体数	人数
2022年度	9	98	29	104	38	202	182	1,346
2021年度	11	72	36	96	47	168	182	1,485
前年差	▲ 2	26	▲ 7	8	▲ 9	34	0	▲ 139
前年比	81.8%	136.1%	80.6%	108.3%	80.9%	120.2%	100.0%	90.6%

（４）必要に応じて関係機関や専門家等との連携・調整をすること。

※関係機関とは、公共団体、教育機関、他センター、社会福祉協議会、法人などをいう。

【関係機関や専門家との連携実績】

関係機関名・専門家	実施日	連携・調整内容
藤沢市民活動推進機構 NGO/NPO の組織基盤強化のためのワークショップ	6 月 8 日(水) 14:00~17:00	事例を参考に団体の課題を抽出し、グループ毎に深堀を行った。
藤沢市民活動推進機構 NPO の戦略構築支援 戦略の骨格勉強会（2 回） 講師：多摩大学経営情報学部 松本教授	8 月 16 日(火) 13:30~16:30 9 月 2 日(金) 14:00~17:00	藤沢、平塚、小田原、鎌倉、保土ヶ谷の各支援センターをオンラインでつなぎ、１７の視点を念頭に置き戦略の骨格を学び実践した。
平塚市社会福祉協議会との連携	ボランティア情報、活動団体の情報提供、防災連携等 適宜情報交換を行った。	
包括支援センターゆりのきとの連携	地域福祉に関する情報の共有、相談内容（個人情報は省く）の共有など、適宜情報交換を行った。	
神奈川県内の支援センターとの連携	神奈川県主催の CEO ミーティングの他、各支援センター間で必要に応じて情報交換を実施した。	

3　事業総括

【自由記述】

（１）センター登録団体の概況

現在の登録数は市民活動 316 団体、一般 132 団体､合計 448 団体となっている。

(2021 年度末比で市民活動は▲15、一般団体は+9)

市民活動団体の登録数減少の主な理由は団体の高齢化・後継者がいない等が大半を占めているが、デジタル化の推進に伴いセンターホームページ団体情報ファイルの更新作業を団体自身で行うことになったことから、更新作業のしにくい団体にとっては、登録抹消の引き金になったと想像できる。

また一方で一般団体（サークル系）が活動の場所を求めて登録するといった傾向が見られた。

市民活動団体の活動分野別での比率は、保険、医療及び福祉の増進関連が 91(28.8%)、

次いで学術、文化､芸術又はスポーツの振興関連が 55 団体(17.4%)の構成である。

尚、市民活動団体の新規登録は 8 団体であった。

（２）施設利用状況の概況

新型コロナ感染症については、令和 4 年秋頃から少しずつ団体活動が平常時に戻りつつあり、

令和 5 年明けからはセンターの利用状況も 3 年前に戻りつつある。

・第一四半期：前年度比、団体利用数は 113.6%、利用人数 128.9%の伸び率

・第二四半期：前年度比、団体利用数は 125.9%、利用人数 147.7%の伸び率

・第三四半期：前年度比、団体利用数は 90.9%、利用人数 123.6%の伸び率

・第四四半期：前年度比、団体利用数は 116.9%、利用人数 135.3%の伸び率

・通期実績：前年度比、団体利用数は 110.3%、利用人数 132.5%の伸び率

第三四半期の団体利用数は前年度を下回ったが、利用人数は 123.6%と増加した。

通期では利用団体数は 110.3%、利用人数は 132.5%と前年度を上回ったが、利用人数の伸び率が大きい(特にミーティンスペースが前年比 142.1%と大幅に増加した)。

・会議室の利用状況は、市民活動登録 316 団体の内 148 団体(利用率 46.8%)が会議室を利用した
(一般団体は 132 団体の内 41 団体：利用率 31.1%)。

・会議室稼働率は、時間帯別で見ると午前 78.1%、午後 84.8%、夜間 56.1%となった(全体では 73.0%)。
(参考)前年度：午前 69.7%、午後 80.6%、夜間 50.1%、通期 66.8%)
：稼働率目標値は 80%以上

（3）委託契約書による事業の進捗状況

契約書の内容に従い、市民向け講座など各事業、定期刊行物発行、協働推進課との定期的な情報共有等々、通期を通して遅滞なく履行できた。

（4）人材育成

新人研修

① 6 月 3 日(土)、ビジネスマナー、メンタルヘルス基礎及び平塚市の基本情報の説明などの研修を実施した。(講師：湘南 NPO サポートセンター 鈴木理事)

② 6 月 12 日(日)、ちがさき市民活動サポートセンター、藤沢市民活動推進センターを訪問し、他センターの運営・事業内容を伺い、比較検討した。

③ Excel 研修：Excel の基礎と応用を学ぶ（6 月 30 日、7 月 14 日、21 日、）

④ NPO 支援センター初任者研修会への参加（日本 NPO センター主催）
・8 月 3 日(水)：知っておきたい NPO のこと、NPO 支援
・8 月 8 日(月)：NPO 支援の先輩から学ぶ 1~集める、掘り起こす~
・8 月 25 日(木)：NPO 支援の先輩から学ぶ 2~繋ぐ、創り出す~

スタッフ研修

① 認知症サポーター養成講座(7 月 30 日(土)14:00~16:00)
包括支援センターゆりのきを講師に招き、スタッフ 9 名が参加し実施した。

② センター主催講座への参加
NPO 法人の設立講座、広報講座、防災座談会等、団体と共に学ぶことで団体の現状把握、相談力向上に努めた。

③ パートナーシップミーティング in 藤沢 災害に備えるまちミーティング
1 月 26 日（木）オンライン参加（2 名）

④ 令和 4 年度災害ボランティアセンター設置運営訓練参加
3 月 25 日（土）平塚市社会福祉協議会主催（2 名）

課題：センターホームページでの団体情報更新作業に不慣れな団体へのサポートについては引き続き継続するとして、役員の交代等による団体 ID、パスワードの管理が課題となっており、引き続き推進課と検討していきたい。

今後の課題としては、事業計画～調整～実施～報告～振り返り～まで出来る人材、専門相談スキルの向上、協働のコーディネートの対応ができる人材育成についても引き続き取り組んでいく。中間支援組織としての機能強化に向けて更なるレベルアップ等々、法人内部としてもしっかり検討し取り組んでいきたい。

（５）NPO/市民活動団体の高齢化・事業継承、コロナ禍での活動状況、若者やシニア世代の市民活動・ボランティア活動への普及について

① 特定非営利活動促進法の成立から 25 年が経過し、団体の高齢化・事業継承が継続課題となっている。また、コロナ禍の影響を受け活動の休止、低迷など、団体活動の継続についても大きな問題として残っている。

② 若い世代のボランティア活動や市民活動への参加を通じて、まちづくりへの関心を高めていくことも今後の市民セクターとしての課題であるが、令和 5 年度以降、事業を通して体験の場や話し合いの場を設けていきたい。

③ 一方、人生 100 年時代と言われ、定年後のボランティア活動や市民活動、地域活動への参加の機会の提供も必要と思われる。健康増進や生活への張り合いを持ってもらう意味でも生涯学習を取り入れた研修等の企画開催も期待されている。年度末に実施した、市民と市民活動団体とのマッチング交流会では 20 代から 70 代までの幅広い層の市民の参加があった。

④ 子ども食堂や学習支援団体の連携を促進するとして「ひらつか子ども・子育て支援団体ネットワーク」が発足し 3 年が経過した。令和 5 年 3 月にはネットワーク情報発信部会から情報発信強化のためのホームページ立上げについての相談があり、次年度も継続した支援を求められている。（事務局：平塚市社会福祉協議会）

（６）その他　令和 4 年度の振り返りと今後に向けて

・この 3 年間は新型コロナウイルス感染症という、言わば大災害にどう対応するかを問われたと同時に、人とのつながりの大切さに気づき、つながりの再構築に取り組む活動が活発化してきた年でもあった。センターとしても社会の変化に敏速に対応する事業企画が求められていることを改めて実感した。

・また現在、センター運営事業は単年度契約となっており、市民活動の活性化に向けた中長期計画の策定がしにくく、スタッフの安定した雇用を考えると決して良い状況ではないと考える。
この課題については引き続き協働推進課と意見交換を行っていきたい。

以上

エ　農福連携マッチング等支援事業（神奈川県）

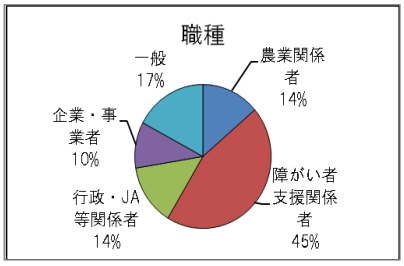
●神奈川県と共に障がい者の就労機会の確保・工賃向上、農業の担い手の確保という課題を解決するため、農福連携の推進が必要であるという課題を共有し、協働で事業を実施するに当たり、農福連携の推進を通じて、誰もが支え合い、受け入れ合う持続可能な共生社会の実現を図る事業の最終年度。

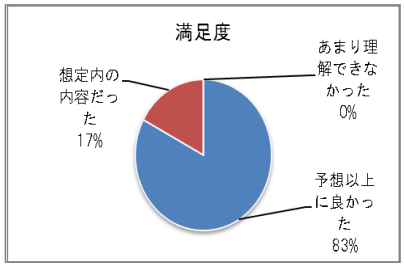
・「農福連携コーディネーター養成講座」（ひらつか市民活動センター）

(1)5 月 14 日　講師：加藤貴一氏（JOB コーチ）
新井亮祐氏
（株式会社てしお夢ふぁーむマネージャ）
参加者：22 名

(2)6 月 18 日　講師：濱田健司氏　東海大学教授
参加者：21 名

・「マッチングの場づくり」１月 28 日
農福連携フォーラムとして開催（ひらつか市民活動センター）　参加者:36 名





・「スタディーツアー」３月７日
秦野市北矢名の宮村農園さん、平塚市金目地区の柏農園さん、秦野市曾屋のみんなのミミさん（就労支援施設 B 型事業所を訪問　参加者：15 名

・「全体会議」３地域の情報交換、事業の進捗状況や課題等の確認
四半期毎に計４回の実施
・「平塚地域の事業実施に係る調整等」

・一連の研修・スタディーツアー・マッチングの場づくりを実施し、令和４年終了時点で 20 名のコーディネーターが登録した。実績：マッチング８件、新規就労日数 171 日、延べ人数 564 人。
・コーディネーターとの情報交換会：オンライン・メール等で実施し市内の農福連携の情報を共有した。
・マッチングの場づくりは、３年間の集大成として「農福連携フォーラム」として実施し、市内外から関心のある方々にお集まりいただき、農福連携の現状と課題を共有することができた。
・マッチングの成果を見える化するために、農福連携の Web サイトを制作した。今後はこのサイトを活用したマッチングの仕組みができればと考えている。

オ　地域の支え合い仕組みづくり事業

１．事業目的及び概要

（１）目的

地域住民組織、市、中間支援組織及び県は、地域を主体に、民間・行政等が連携し、独居などの高齢者が自分らしく活躍できるまちづくりのために協働で事業を実施する。この事業は、高齢者活躍の仕組みづくり支援を通じて、誰もが支え合い、受け入れ合う持続可能な共生社会の実現を図ることを目

的とする。

（２）事業概要

人口減少と超高齢化の進行により地域運営の持続性が危惧される城島地区を、未病・健康と農業・食育学習等を組み合わせた体験・滞在・交流型の活動の実践、大学・高校や地元民間企業と連携した研修・実習・実験の場として活用する。また、休耕農地や空地・空家等を有効活用するとともに、現在の農業従事者だけでなく農外就業者の定年後の地域参画の新たな機会をつくり、幅広い世代がかかわる持続可能な地域運営の仕組みづくりに着手する。

令和４年度は令和３年度に企画実施したマルシェ、体験教室等の試行実施結果、参加者意見等を踏まえ、地域主導型運営の体制づくりを検討した。

２．事業の具体的な内容

（１）企画運営会議

本年度は事業全体実施内容とスケジュールについて協議・確認する実行委員会の下に、4G（農地活用 G、資源活用 G、広報 G、渉外 G）を設け、定期的に WG 代表者会議を開催し、多重的に企画運営した。

○実行委員会：8 回　各回出席 35～37 名

○代表者会議（４G 代表者）：9 回　各回出席 15～16 名

○農地活用 G：3 回　各回出席 7 名

○資源活用 G／広報 G（合同で開催）：4 回　各回出席 6～7 名/回

○渉外 G：4 回　各回出席 3～6 名/回

（２）第 2 回「きじまルシェ」

・4/23（土）　田植え前のﾚﾝｹﾞ田

・特産野菜販売、事業紹介ﾊﾟﾈﾙ、米づくりﾏｼﾝ展示、健康チェック　等

・参加者　350 名（城島 39%、市内 48%、市外 13%）

・スタッフ（含む学生）　約 70 名

（３）体験プログラムの実施

①「米づくり・野菜づくり体験教室」

・米/野菜づくり体験教室　6 回　2 回悪天候のため中止

・田植え/稲刈り、野菜植付け/収獲、収穫新米・野菜の持帰り

・参加者　22 家族　参加費　1 万円/家族

・スタッフ（含む学生）延約 100 名

・11/19（収穫祭）参加者・スタッフの意見交換/新米試食

②「自然・歴史探索/体験」

○鎌倉殿の足跡巡り散策：5/21　参加者 30 名

○健康料理教室：6/24　夏の養生薬膳　参加者 16 名

3/21　米粉入りパンケーキ作り　参加者 10 名

○弁天池再生（生き物観察）：7/9　参加者 15 名

○自然農法（みそづくり）：7/23　参加者 18 名、　10/14　参加者 10 名

○里学びデイキャンプ（竹細工）：8/27　参加者 2726 名

○冬の星座空観察：12/18　参加者 24 名

（４）情報発信

○「公民館だより」に合せた「活動報告」（各戸配布）H2～　25 回

○HP「城島へようこそ！」

○インスタグラム「KIJIMARCHE」　○地元メディア放映/掲載（CATV、ﾀｳﾝﾆｭｰｽ等）

○「広報ひらつか動画」弁天池再生他の活動紹介　→神奈川県広報コンクール映像の部　最優秀賞

（５）外部機関連携

①東海大学　健康学部（市川研）工学部（梶田研、後藤研）

・卒論フィールドとしてのヒアリング協力

・「きじまルシェ」企画運営への参画

・「自然・歴史探索/体験」の企画運営への参画

②平塚農商高校

・「きじまルシェ」企画運営への参画

・城島公民館祭りでの城島魅力アイデアパネル展示

・「地域学校協働活動」の一環として学校運営協議会への参画　7/1　11/10

③平塚市関係各課協議

・今後の活動支援についての協議　1/20

３．事業の成果と課題

（１）高齢者の参画・協力、活躍機会の拡大

・「きじまルシェ」での農産物販売、米づくり・野菜づくり体験での田植え・稲刈り指導や収穫祭での新米試食料理等、高齢者自らが企画運営に関わることで高齢者の活躍の機会の場の創出することができた。

・地域外との交流を通じた城島らしさの魅力の再確認ができた。

（２）既存地域活動団体との連携の兆し

・地域包括ケアセンターの健康チェックや地場野菜を使ったパン販売等、マルシェを通じた健康テーマの関係機関とのつながりが拡大した。

・体験 PJ 試行において「公民館事業」との共催や「おおすみネット（地域教育力ﾈｯﾄﾜｰｸ協議会）」の協力等、小・中学生の参加や親世代が参画しやすい形で実施することで、交流機会を増やす実効性があがると気づき、さらなる連携に取り組んでいこうとする機運が高まった。

（３）地域交流の場としての休耕地、遊休地、空き家等の活用の意義の共有化

・野菜づくり体験での休耕畑利用、デイキャンプでの遊休広場利用、移転者の空家リノベーション(まなびサロン化）等、学びの場や交流の場として工夫しながら利用することで地域が動きだし、多様な活用の可能性があると土地所有者が気づき、意識も変化しつつある。

（４）運営の持続性に向けた体制の整備

・一方で、現在の湘南 NPO サポートセンター主体の事務運営から、次世代の意欲のある人材の参

画や資金確保等、自主運営を見据えた事務局体制・資金面の整備が課題といえる

・城島らしさである「農」を基本に地域外との交流・関係人口を増やす手段としての「学び（体験）」の付加価値化に向けた地域内外の諸活動との連携が必要である。

４．次年度以降の自走化の目標と取り組み方針

（１）目標

・社会教育・生涯学習の一環として、小中学校、高校、大学ならびに地元民間企業との協力体制のもとで、「農」と「学び」を基軸にした「多世代交流のガーデンタウン（いきいき田園地域）づくり」をめざす

（２）自走化の基本方針

○組織体制強化

・「地元活動団体代表主導」体制から「事業賛同次世代主体」の自主運営事務局体制を整え、地域内外協力基盤となる「サポータ制度」の構築を図る。

○収益・資金運用拡充

・平塚農商高校、JA 等との協働活動を通じた農産物加工・商品化等による収益事業化、農体験・里学び体験プログラム拡充による継続収入確保を進める。

○土地・施設の持続的活用

・農地所有者の理解・協力のもと、休耕化、迷惑施設への転用を抑制し、田園環境との親和性の高い交流や学びの機会・場としても活用していけるよう土地・施設の新たな活用制度化、規制緩和に向けた関係者協議と進める。

（３）取組み方針

○ 組織体制強化の取り組み方針

・企画実践マネジメント力、プレゼン・情報発信力、関係者調整力を有するコアメンバーによる事務局を設立する。

・実働実践力を高めるため、協力者登録（サポーター）と活動支援の基金募集（サポートファンド）を進め、各種活動時、HP 等での協力を PR する。

○収益・資金運用拡充の取り組み方針

・平塚農商高校との「協働活動事業」で城島の売りとなる農産物加工・商品化の実践に取り組む。

→　米粉、規格外野菜を活かした加工品試作と商品化

→　健康薬膳料理教室、マルシェでの体験・実演紹介／販売

→　「きじまルシェ」と「(仮称)農商マルシェ」のコラボ試行

→　新たな地域魅力発見と体験プログラムの企画・作成・PR の協力

・市内外の関連活動団体、活動との連携・発信を高め、参加者拡大を図る。

→　観光協会、JA 等との連携による体験プログラムの拡充

→　まち活拠点「きちきち」との連携にオリジナル商品の販売

○土地・施設の持続的活用について平塚市と支援協議を継続

・調整区域の休耕地・遊休地の活用：農水産課、農業委員会、まちづくり政策課

・体験学習の場、収益事業への展開：社会教育課、健康課、産業振興課

・地域資源の活用と高齢者参画の視点での新たな事業の検討に向けた福祉部局と意見交換を行う予定である。

カ　社会環境の変化に対応した地域活動の仕組みづくり支援事業

1．事業目的

平塚市との協働で 8 年間実施している「ひらつか地域づくり市民大学」において、多くの地域で各種団体役員の高齢化、担い手不足が大きな課題となっていることが明らかになっていた。そのような中、ウイズコロナ、アフターコロナを見据えた社会環境の変化に対応した地域運営のありようを再確認していく必要性が急速に高まっている。本事業では、地域の課題解決に向けた地域づくりを行う上での留意点・確認するポイントをわかりやすく体系化し、次世代へ継承していける新しい生活様式を取り入れた地域活動の仕組みづくり支援を目的とする。

2．事業の具体的な内容

令和 4 年度は、前年度の自治会アンケート結果に関する地域側での詳細説明ニーズが高かったことを踏まえ、当初の事業内容を一部変更し、アンケート結果をもとに今後の検討に取り組もうとしている地区との意見交換、新しい検討プロセスの試行に取り組む地区（モデル地区）や地域一体となった実践事例を整理し、地域活動の仕組みづくりのヒントになるノート・事例集の骨子案を作成した。

（1）1 年目のアンケート結果を踏まえた自治会意見交換会の実施

・対象：自治会アンケート結果に関心を持ち、今後の地域活動検討の参考にしていこうと申入れがあった自治会

・内容：アンケート結果詳細説明、人口・世帯野見通し、今後の検討課題等の説明と意見交換

・実施：平自連総会での説明会　5/7　参加者 120 名

伊勢山地区　6/26　地元参加者 35 名

松原地区　10/15 地元参加者 35 名

崇善地区　12/3　地元参加者 20 名

港地区　2/4　地元参加者 35 名

（2）モデル地区での新たな仕組み検討の試行

①横内地区

・新しい地域活動・地域づくりの取り組みの検討に向けた課題確認と試行に向け、自治会ならびに「まちづくりを考える会」とワークショップ実施

ワークショップ（WS）　7 月～3 月　6 回　参加者延べ 80 人

・意見収集の試行として、「暮らしと地域活動に関するアンケート」実施

対象：隣組長世帯ならびに各種団体役員世帯の中学生以上全員
12 月配布　1 月回収　472 票（回収率 29.5%）　2 月集計
3/22 の WS　3/26 の各種団体反省会　にて報告

② LaLa 湘南平塚コモンズ自治会
・新住民が多い地区の中で、“わがまち”を感じて連帯していくきっかけ・場づくりに向け、ワークショップ実施
ワークショップ　7 月～1 月　5 回　参加者延べ 60 人
・意見収集の試行として、「シールアンケート・インタビュー」実施
対象：防災&ミニレクイベント（LaLa 湘南平塚コモンズ自治会主催）
11/27 実施　参加者 200 人(6 割大人、4 割子ども)
アンケート回答者大人 120 人のうち 55 人（ほぼ半数が回答）

（３）「地域活動の仕組みづくりノート（仮称）」の骨子案作成
・上記（１）、（２）ならびにこれまでの「ひらつか地域づくり市民大学」でのテキスト、事例を参考に、「地域活動の仕組みづくりノート（仮称）」として骨子案を作成した。
＊「地域活動の仕組みづくりノート（仮称）」
→これからの地域活動を考えるプロセスとポイントを整理
＊「ヒント事例集」
→上記ノートに関連して参考となる 10 事例を整理
＊「データ集」
→上記ノートに関連する社会情勢変化や法制度等のデータを整理
（４）7 地域区分（都市マスタープラン区分）自治会アンケート整理
・地域活動の仕組みについては地域・まちづくり全般とのかかわりが重要であるとの再認識のもと、今後の平塚市の地域・まちづくりのベースとなる都市マスタープランや立地適正化計画との整合性を加味して前年度実施した自治会アンケートの再整理を行った
＊市関係各課との情報共有含め、100 部印刷

（２）市民活動や地域活動及び地域社会の情報化やまちづくりの支援事業

ア　メディア事業
●市民及び市民活動団体、地域活動団体、事業者等が発行するチラシやリーフレットの作成、WEB サイト構築に関する相談と助言及び制作を行った。この活動を通して市民、市民活動団体、地域活動団体の組織基盤強化と団体の自立に向けての後押しをすることができた。
・定期的に継続して依頼されるものが安定的にある一方で、見積りはしたが作成に至らなかった事例が去年度より若干増加した。また、去年度に新規の作成依頼されたクライアントからは今年度も引き続き依頼していただいた。
・オンライン会議の開催方法や動画について、またホームページ作成などに関する相談や依頼は今年度も数件あった。

・メディア事業会議　クライアント様と適宜内容に応じて打ち合わせを行った。
【実績】平塚市自治会連絡協議会様、吉沢地区自治会連合会様、横内中学校 PTA 様、
平塚市介護の会　はまゆう様、NPO 法人湘南平塚きさわ里地里山ラボ様、
ハッピー八幡通り商店会様、吉沢地区地域運営協議会様、市議会議員様

イ　スマホ・タブレットサロン
・毎週木曜 10 時～12 時、市民活動センターを利用して IT 支援（スマホ・タブレット・PC の使い方についてマンツーマンまたはオンラインによる支援を行った。
※サロン開催回数 50 回、参加延べ人数 140 人、講師として 5 人が対応した。
・IT スキルの高いシニア会員が中心となって 6 年目の継続開催。サロン形式でほぼ個別対応。受講生はリピーターが多く「自分のペースで、知りたいことをピンポイントで教えてもらえる。」などの評判あり。スマホの相談が増加している。（コロナウィルス対策をしながら開催した）

ウ　ひらつか地域魅力ネットの運営
・地域で活動する魅力ある人・団体・場所・お店等を取材し、Web サイトへ掲載した。平塚の魅力発信を行うとともに市民活動・地域活動の情報発信の場、交流の場として活用していただくことを目的としている。
・今年度の新規の記事は１本にとどまった。取材を担当する人材の確保が課題となっている。

[法人運営に関する事項]
会員
●会員数
令和４年３月末日時点　　正会員 37 名　団体会員 1 団体　賛助会員 10 名　アドバイザー 2 名
合計 50 名

●第 10 回定期総会（社員総会）
日時：令和４年５月 21 日（日）14：00～16：00
会場：ひらつか市民活動センター、ハイブリッドにて実施
正会員総数　　38 名
出席者数　　29 名（出席者 12 名、オンライン７名、委任状 10 名）

（1）　会議

●理事会		
第１回　4 月 29 日	第２回　5 月 21 日	第３回　7 月 30 日
第４回　10 月 14 日	第５回　12 月 11 日	第６回　3 月 3 日
議題：総会企画・議案、予算・決算、事業報告・計画、各事業部の進行状況管理 次年度組織体制、役員人事、市民活動センター人事、10 周年記念事業、等		

●定例会		
第１回　4月 12 日	第２回　6月 14 日	第３回　8月9日
第４回　10 月 11 日	第５回　11 月 15 日	第６回　12 月 13 日
第７回　1月 24 日	第８回　2月 21 日	第９回　3月 21 日

議題：まちづくり事業部、メディア事業部、市民活動センター事業部から適宜報告と現状課題について情報交換・意見交換を行った。

●オンライン開催：コロナ感染対策により定例会はすべてオンライン開催とし、毎月第２火曜 18:00～19:30 として定期的に実施した。定例会は会員相互の交流が目的ではあるが、それぞれプロジェクトは独自のミーティングを行っているせいか、参加人数が思わしくなく、定例会の持ち方を検討する必要がある。

●MAIL NEWS 発行：会員間の情報共有を推進すべく毎月１日に会員向けの MAIL NEWS を発行した。定例会に参加できない会員に対しての情報提供に努めた。

（２）講師依頼等

・令和４年度　神奈川県県央地区社会教育委員連絡会議　講師
・　同　　神奈川経済同友会　第３回環境福祉委員会様　講師
・　同　　小田原市「おだわら市民学校」講師
・　同　　小田原市「地域活動担い手育成講座」講師
・　同　　綾瀬市市民協働事業研修会（職員研修）講師
・　同　　平塚市まちづくり事例表彰団体交流会　講師

（３）各団体・行政・他機関等委員の受任

茅ケ崎市市民活動推進委員（1 名)、綾瀬市市民協働アドバイザー（1 名）
かながわ協働推進協議会委員（1 名)、公財）アイネット地域振興財団　選考委員会（1 名）
東海大学 地域の健康課題解決推進会議普及教育委員会委員（1 名）
県立平塚江南高校学校運営協議会委員（1 名）
平塚市横内小学校学校運営協議会委員（1 名)、平塚市横内中学校評議員（1 名）
平塚市中央公民館運営委員(1 名) 、平塚市社会教育委員(1 名) 、
平塚市真土地区青少年指導員(1 名)、平塚市大原地区青少年指導員(1 名)

４．組織（役員）体制　令和４年度末時点

理事長	坂田　美保子	副理事長	氏家　真美
理事	鈴木　奏到	理事	梶田　佳孝
理事	長谷川　正幸	理事	宮崎　道名
監事	徳永　宣明		
アドバイザー	二宮　雄岳氏	アドバイザー	斉藤　進氏

以上